

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 33 号	氏名	奥山 義和
学位審査委員	主査 澤瀬 隆 副査 藤原 卓 副査 筑波 隆幸		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は直接法用常温重合型硬質リライン材の粉液比と methyl methacrylate (MMA) に対する ethylene glycol dimethacrylate (EGDMA) の含有量を変化させ、硬化時間と機械的性質の関連性を検討したものであり、その目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 硬化時間の測定にはオシレーティングレオメーターを使用し、曲げ強さ、曲げ弾性率の測定は ISO20795-1 に準じ行った。統計処理も適切であり、研究手法は妥当と考えられる。</p> <p>3 解析・考察の評価 MMA と EGDMA を主成分とする常温重合型硬質リライン材において、硬化時間については粉液比よりも MMA に対する EGDMA の含有量が大きく影響し、一方機械的特性においては粉液比の方がより影響を及ぼすことが解析され、これらは科学的に考察されている。高い耐久性を有する常温重合型硬質リライン材の開発に大きく貢献するものと期待される。</p> <p>以上のように本論文は、常温重合型硬質リライン材の材料学的研究および歯科補綴学に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			